

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.91

清流の復活

高知県 奈半利町長

さいとう かずたか
齊藤 一孝



「奈半利（なはり）町」は、高知県東部に位置し、高知市から国道 55 号を室戸、徳島方面に約 50 km、車で約 90 分の距離にあります。

また、平成 14 年 7 月に開通した、土佐くろしお鉄道「奈半利駅」は「ごめん・なはり線」の終始発駅になっております。

奈半利町は、古くは奈良時代末期から平安時代前期の寺院跡（コゴロク廃寺）が発見されているところから古代には産業・文化の中心であり、交通の要衝として栄えてきたまちであります。

養老年間には、「野根山街道」が開設され、土佐と阿波を結ぶ官道として開かれ、また、紀貫之の「土佐日記」には、「那波の泊」として記されており、海路においても歴史が刻まれております。

現在では、温暖な気候を利用した施設園芸の、ナス、ミョウガ、スイカなどの農産物の生産、水産では、土佐沖での、鰹、金目鯛、スルメイカ、アジ、サバなどの水揚げが盛んであり第 1 次産業を中心とする自然豊かなまちです。

観光面では、港湾施設である、沖の離岸堤の人工構造物の波消しブロック基礎に定着した、約 70 種類を超える珊瑚が生息し、奈半利港から出船する珊瑚遊覧船で見ることができ、波の穏やかな日は、観光客で賑わっております。

また、「なはり浦の会」の案内による、明治以降に建てられた古民家が並ぶ街並みを散策する、「町並み散策ツアー」も行われ、町内を見学すること
高知県



高知県 奈半利町 位置図

もできます。

イベントとして、平成 16 年 8 月 24 日高知県では初の「みなとオアシス」として登録されたことをきっかけに、毎年 11 月には、奈半利駅広場で「よったかってフェスティバル」が開催され、地場産品の販売や、地元で獲れた魚の販売、観光客による魚のせりなどが開催されます。また、奈半利港開港記念として、本年度で第 44 回となる「港まつり」が毎年 8 月 16 日に開催され、奈半利港内で行われる、杉丸太を組み合わせた「イカダ競争」、勇壮な「船舶パレード」、最後には、迫力のある大変美しい「花火大会」が行われ、当日は多くの観光客で賑わっております。

また町の西を流れる奈半利川は、急流河川として名高く、古い話ですが金突の先の 5 本の矢が、縦にすべて刺さっていた鮎がおったそうです。背が盛り上がり、幅が厚く、香りもよく、有に尺は超えている鮎であったことでしょう。

そのような鮎が消えて久しく、近年では河川環境の悪化等により、放流鮎に頼るしかありません。

子供達が河川と親しむ機会が薄れ、川で遊ぶ子供の姿をみるのが無くなりつつある現在、日本の高度成長の基となる電力需要を影で支えてきた奈半利川の清流を復活させ、「自然と調和した住みよいまち」「豊かで活力のある明るいまち」を目指して取組んで行きたいと思っております。



サンゴウォッチング コーラル号内